

CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要

トップメッセージ

サステナビリティマネジメント

価値創造

環境

環境マネジメント

気候変動への対応

製品・容器包装の3R

廃棄物等の管理・削減

水資源の保護

有害化学物質の管理・削減

生物多様性の保全

社会

ガバナンス

生物多様性の保全

環境アクションプラン2025年度実績[概要] ▶ p.038

環境アクションプラン2026年度目標[概要] ▶ p.039

基本的な考え方

企業活動は生物多様性と深いつながりがあります。事業に必要な資源の供給を生態系から得る一方で、事業活動における化学物質や温室効果ガスの発生により生態系に負荷を与えています。

生物多様性は社会の基盤であり、企業が事業活動を継続していくためには、その保全がとても重要です。2022年12月にカナダのモントリオールで生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）の第2部が開催され、新国際目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF）」が採択されました。この枠組みは、自然の回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急行動をとることを「2030年ミッション」とし、新たな23のターゲットにはビジネスに関する目標も盛り込まれています。これらのターゲットの達成に向けて、今後企業には生物多様性に関する取り組みを一層加速させることが求められるようになります。また、2023年9月には自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）^{*1}が、「自然関連財務情報開示タスクフォースの提言（TNFD最終提言 v1.0）」を公開しました。

ニコングループはニコン環境方針にて、バリューチェーンにおける生物多様性や生態系に関する依存、インパクト、リスク、機会の把握と開示および事業活動や環境活動、地域貢献活動を通して生態系の保全に努めることを定めています。また生物多様性の保全を、ニコン環境長期ビジョンの柱のひとつである「健康で安全な社会の実現」につながる取り組みとして位置付

け、活動を行っています。

近年自然の喪失は気候変動を加速させ、気候変動は自然喪失の原因であるという認識が広まりつつあります。

ニコングループはそうした気候変動との関連も認識し、生物多様性の保全に取り組むほか、TNFD最終提言に沿った情報開示をめざしていきます。

^{*1} 民間企業や金融機関が、自然資本や生物多様性に関するリスク、機会を評価し、開示するための枠組みを構築するための国際的な組織。

Web ▶ ニコン環境方針

戦略

リスク

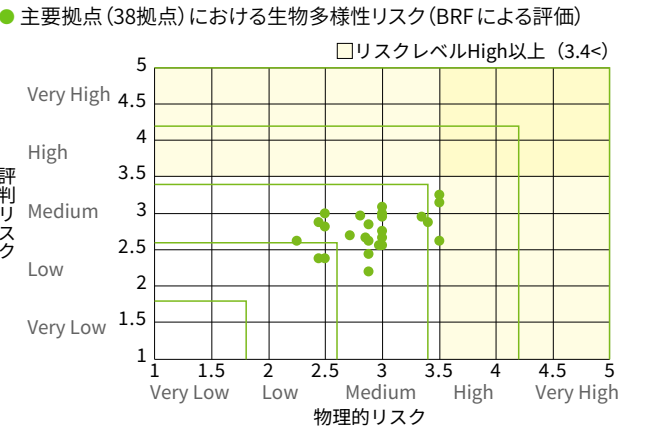
ニコングループではWWFのBiodiversity Risk Filter^{*2}（BRF）を使用し、主要38拠点を対象に物理的リスクと評判リスクの評価を実施しました。すると、「物理的リスク」「評判リスク」の粒度で見た場合、いくつかの事業所において、物理リスクが高い（3.4<）という結果が得られました。評判リスクについては、いずれの事業所も中程度以下（≦3.4）でした。しかし、評価に用いる33の指標を見てみると、リスクレベルが非常に高いリスク指標もあることが分かりました。地域別に、リスクの傾向が異なることも分かりました。

また、Encore^{*3}を用いて、ニコングループの主な事業活動の自然への依存と影響について評価しました。すると、「水の供給」「水質浄化」「水流調整」「遺伝物質」について自然への依存度が高く、また「大気汚染物質排出」による自然への影響度が高い可能性があるという結果になりました。

これらの結果も考慮し、生物多様性に関連するリスクを特定しました。

^{*2} 生態系保全とビジネスの観点から、森や海、河川流域などの自然環境に対する空間的な理解を促進し、投資やビジネスモデルの検討に必要な課題や優先性を判断するツール。WWFが開発。https://riskfilter.org/

^{*3} 民間企業の自然への影響や依存度の大きさを把握することを目的に、国際的な金融機関のネットワーク「自然資本金融同盟（Natural Capital Finance Alliance（NCFA）」および「国連環境計画世界自然保全モニタリングセンター（UNEP-WCMC）」などが共同で開発したツール。
https://www.encorenature.org/en



水資源の保護 ▶ p.053

有害化学物質の管理・削減 ▶ p.056

CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要

トップメッセージ

サステナビリティマネジメント

価値創造

環境

環境マネジメント

気候変動への対応

製品・容器包装の3R

廃棄物等の管理・削減

水資源の保護

有害化学物質の管理・削減

生物多様性の保全

社会

ガバナンス

● 自然への依存と影響 (Encoreによる評価)

非常に高い (VH)、高い (H)、中程度 (M)、低い (L)、非常に低い (VL)、データなし (ND)、該当なし (NA)

	依存									影響						
	水の供給	水質浄化	水流調整	洪水緩和	降雨パターン調整	暴風緩和	土壌・堆積物の保持	固形廃棄物の浄化	遺伝物質	温室効果ガス排出	水使用量	大気汚染物質排出	土壌・水質汚染物質排出	固形廃棄物の発生と放出	生活妨害 (騒音・光害等)	栄養性の土壌・水質汚染物質の排出
直接操業	M-H	NA-VH	M-H	M	VL-M	M	L-M	ND-M	NA-H	L-M	M	L-H	ND-M	L-M	ND-M	NA-M

● 生物多様性に関するリスク

主なリスク			関連する主な依存・影響		財務への影響	関連するGBFのターゲット	ニコンの取り組み	該当ページ
物理的リスク	急性	自然の劣化による熱帯低気圧の激甚化	依存：洪水緩和、暴風緩和、土壌・堆積物の保持 影響：温室効果ガス排出		主要拠点の被災による操業停止や資産価値の低下	Target8：気候変動対策	脱炭素活動（省エネ、再エネの推進） 事業継続マネジメント（BCM）の推進	p.044 p.110
	慢性	自然の劣化による降水パターンの変化や干ばつの発生	依存：水の供給、水質浄化、水流調整、降雨パターン調整 影響：水使用量		十分な水資源を採取できないことによる稼働率の低下や操業停止	Target8：気候変動対策 Target 11：自然の調整機能の活用	取水量の削減 積極的な水資源のリサイクル推進 水リスク評価の実施	p.053
移行リスク	政策	汚染に関する法規制の強化	影響：大気、排水、土壌への汚染物質の排出、 廃棄物の排出		生産工程や製品に含有する化学物質の管理コスト増加 法規制強化に伴う原材料供給量の減少と価格高騰、代替品への切り替え 廃棄物や排水の処理コスト増加 罰金の発生や社会的信用の失墜による売り上げ減少や株価の下落	Target7：汚染防止・削減	製品含有化学物質の管理・削減 生産工程における化学物質管理 廃棄物削減 適切な廃棄物管理 適切な排水処理の実施 包装材・梱包材などの使い捨てプラスチックの削減	p.056 p.056 p.052 p.051 p.054 p.050
		情報開示規制の強化	依存：水資源をはじめとする自然資源 影響：GHG排出、汚染物質の排出、排水など		生物多様性を加味したアセスメントや関連する情報開示への対応コスト増加	Target15：ビジネスの影響評価・開示	環境関連のモニタリングと適切な情報開示 TNFD対応	p.060
	技術	環境負荷の小さい原材料への置き替え義務化	依存：森林資源 影響：化学物質や製油由来の原材料の使用		環境負荷の小さい原材料への切り替えができないことによる市場からの排除、競争力の低下	Target7：汚染防止・削減 Target16：持続可能な消費	製品アセスメントの実施 製品・容器包装の3Rの取り組み	p.037 p.048
	評判	環境に配慮していない自然資源の使用による企業評価、ブランド価値の低下	バージン材利用の縮小、再生材・リサイクル材などの原材料への切り替え 製品のトレーサビリティに関する情報伝達や開示 事業所における廃棄物削減		社会的信用の失墜による売り上げ減少や株価の下落	Target7：汚染防止・削減 Target9：野生種の持続可能な利用 Target16：持続可能な消費	製品アセスメントの実施 製品・容器包装の3Rの取り組み 持続可能な紙利用	p.037 p.048 p.062

CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要

トップメッセージ

サステナビリティマネジメント

価値創造

環境

環境マネジメント

気候変動への対応

製品・容器包装の3R

廃棄物等の管理・削減

水資源の保護

有害化学物質の管理・削減

生物多様性の保全

社会

ガバナンス

機会

ニコングループは生物多様性に関する事業における機会を認識しています。

エネルギー効率を高める技術や廃棄物削減や資源循環につながる製品・サービスは、本業を通じての生物多様性保全への貢献であると考えています。また、教育、研究の場への製品提供や企業市民活動により、生物多様性についての理解促進、観察・記録を通じた知識の蓄積、科学・自然情報へのアクセス拡大に貢献できると考えています。

ニコン環境長期ビジョンとニコン環境中期目標 ▶ **p.030**

戦略

ニコングループの生物多様性に関するリスク・機会の分析は、現在はまだスクリーニングの域であり、事業の特性を踏まえたより詳細な分析が必要であると認識しています。今後は自社におけるリスクと機会、依存のインパクトの分析をより深化さ

せるとともに、対象を直接操業の範囲外にも拡大し、バリューチェーンにおける自然との関係を適切に評価し、目標の設定や効果的な取り組みにつなげていきたいと考えています。

ガバナンス

ニコングループでは、生物多様性の保全に関するグループ全体的な戦略、リスク・機会の分析などについては環境部会事務局が検討を行っています。そして品質委員会傘下の製品部会の下部組織である製品環境関連会議体および環境部会傘下の地区環境部会にて、目標の立案・取り組みの進捗確認を行っています。

環境推進体制 ▶ **p.032**

リスク管理

生物多様性の保全はあらゆる環境活動と関連しています。ニコングループでは事業や製品に関する自然関連の依存、インパクト、リスクと機会、および取り組みの進捗状況については、製品環境関連の会議体にて確認を行っています。また生産工程については地区環境部会にて評価を行っています。そしてそれぞれの会議体にて関連する法規制や業界情報といった社会動向を確認するとともに、環境部会事務局でも情報収集を行い、相互に情報共有を行っています。

環境に関するリスク管理 ▶ **p.035**

主な取り組み

持続可能な紙利用

ニコングループが生態系サービスより享受している資源のひとつに森林資源である紙資源があります。ニコングループでは、生物多様性および森林資源の保全に貢献する活動の一環として、製品カタログや取扱説明書の電子化を進めるなど、紙資源の使用量削減に取り組んでいます。

また、「紙調達方針」のもと、森林資源の持続的な利用に配慮した紙使用への転換を推進しています。製品開発においては、企画・設計段階、および試作・生産段階で実施する「ニコン製品アセスメント」および「ニコン包装アセスメント」にて、紙資源に関する環境保全性を確認し、利用を推進しています。

ニコン製品／包装アセスメント ▶ **p.037**

▶ 紙調達方針

● 生物多様性に関する機会

主な機会			関連する GBF のターゲット	ニコンの取り組み	該当ページ
パ フ ォ ー ビ ジ ネ ス	市 場	エネルギー効率を高め、脱炭素化に貢献する技術、製品の販売拡大	Target8：気候変動対策	カーボンニュートラル実現に貢献するリプレット加工	 リプレット加工
	効 率 源	資源使用量の削減、廃棄物の削減に貢献する技術、製品の販売拡大	Target16：持続可能な消費	付加加工	 光加工機
サ ス テ ナ ビ リ ティ	生 態 系 の 保 護 ・ 復 元 ・ 再 生	生物多様性の研究、保全活動、および教育・啓発の場における製品・技術の活用機会拡大	Target21：知識へのアクセス強化 Target22：女性、若者および先住民の参画確保	子どもたちへの環境啓発活動意識啓発につながる生き物に関するフォトコンテストの開催 赤谷プロジェクトへの支援*	 Nikon Comedy Wildlife Awards  赤谷プロジェクト
		都市における緑地の確保	Target 12：緑地親水空間の確保	本社敷地の緑化	-

*2025年度の森林保全のボランティア活動は、日本国内で相次ぐ熊被害の状況を踏まえ中止となりました。

CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要

トップメッセージ

サステナビリティマネジメント

価値創造

環境

環境マネジメント

気候変動への対応

製品・容器包装の3R

廃棄物等の管理・削減

水資源の保護

有害化学物質の管理・削減

生物多様性の保全

社会

ガバナンス

FSC 森林認証紙への転換

ニコングループでは「紙調達方針」に基づき、紙の使用量が多く対外的に使用する印刷物から優先的に、FSC森林認証紙^{*1}への転換を進めています。国内では、商品カタログやニコンのコーポレート部門が発行する印刷物、社用封筒および名刺などをFSC森林認証紙にしています。

また、環境アクションプランにおいて、事業部門が使用する紙のFSC森林認証紙化の取り組みを推進しています。2025年度は、国内、北米、欧州で新規発行する商品カタログは特殊紙を除き、約96%がFSC森林認証紙となりました。また、一部製品にて包装化粧箱のFSC認証紙への切り替えが完了しました。

^{*1}FSC 森林認証紙 (FSC 認証紙) : Forest Stewardship Council (森林管理協議会) によって適切に管理された森林の木材を使って作られたことが保証されている紙。

製品に使用する紙資源使用量削減

ニコングループでは製品に同梱する使用説明書などの省資源化に取り組んでいます。

近年、ミラーレスカメラの使用説明書は、多機能化に伴うページ数の増加およびファームウェア更新に対応するための説明書差し替えや追加資料の同梱などにより、紙の使用量が増える傾向にありました。そこで、紙媒体の使用説明書を大幅に簡素化し、詳細情報をウェブサイト上でタイムリーに提供する取り組みを進めています。また、ニコンビジョンでは同梱する取扱説明書の内容見直しやウェブサイトでの情報提供を推進することで、紙使用量の削減に取り組んでいます。

法人向け製品においてもカタログおよび取扱説明書のペーパーレス化を開始しました。ヘルスケア事業では、製品カタログおよび一部製品の取扱説明書をウェブサイトで提供しています。お客様はパソコン、タブレット、スマートフォンなどでいつでも最新の情報を見ることができるため、利便性向上にもつながっています。

これらの取り組みは、紙使用量削減ばかりでなく、印刷や製品輸送時にかかるCO₂排出量削減にも貢献しています。

業界団体における活動

ニコンは、電機・電子4団体^{*2}の環境戦略連絡会生物多様性ワーキンググループに参加し、会員企業の生物多様性の保全・回復を推進しています。同ワーキンググループでは、生物多様性の啓発や活動に取り組む際の手引きの発行、生物多様性に関する動向の調査、研修の開催、会員企業の生物多様性保全活動事例データベースの作成・公開など、多角的に活動を行っています。

2025年度は過去に作成した電機・電子事業と生物多様性の関係性マップの活用事例集を作成しました。また、電機・電子4団体会員企業を対象としたOECM研修会を開催しました。

^{*2} 電機・電子4団体: 電機・電子業界における次の4団体。生物多様性に関して連携して取り組んでいる。一般社団法人日本電機工業会 (JEMA)、一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMA)。

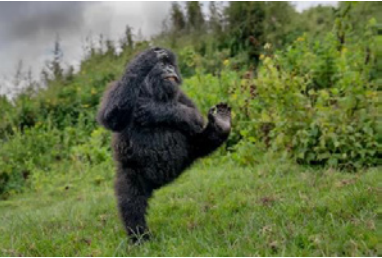
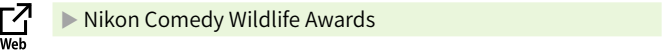
自然への理解・関心を高める写真・動画コンテスト

ニコングループでは自然や生命の多様性を社会に広く紹介する写真や動画のコンテストを開催しています。

Nikon Comedy Wildlife Awardsは、世界中から集まった野生動物の写真の中から、ユーモアに富み心温まる作品を称えるコンテストであり、私たちが同じ地球上で共存する多様な野生動物の魅力を広く紹介する取り組みです。本コンテストはユニークでウィットに富んだ野生動物の写真や動画を通じ、自然保護に関する意識喚起や対話を促進するとともに、人々の自然への理解と関心を深める機会を提供しています。ユーモラスな野生動物の表現は楽しさと感動を届け、人と自然のつながりを身近

に感じる契機を創出します。コンテストの収益の一部は野生動物保全活動を支援する団体に寄付されています。ニコングループは、写真家や映像制作者が社会的意義を持った創作活動に取り組めるよう支援することを重視しており、本コンテストとの協働は、優れた表現を称えるとともに、自然保護の重要性を広く発信する機会となっています。

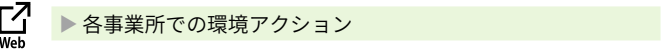
これらの取り組みは直接的な保全活動や生態系回復には当たりませんが、生物多様性に対する社会的関心の向上や、市民による自然保全活動への参加促進に寄与すると位置付けています。また、ニコングループのブランド価値の向上およびステークホルダーとのエンゲージメント強化にも資すると考えています。



Nikon Comedy Wildlife Awards
2025 総合優勝作品
"High Five"
写真 Mark Meth Cohn (UK)

各製作所・事業所での取り組み

ニコングループでは、事業所周辺の清掃・美化活動を通じて、地域環境の保全や、海洋への街ゴミ流出防止にも貢献しています。また、地域で開催される自然保護活動などにも参加しています。2025年度はこうした活動を各拠点で年1回以上、合計で39件実施しました。



各事業所での環境アクション